

年末需要は乏しく、苦戦が続く

12月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

一部地域・業種で回復の兆しが見られるも、年末需要は盛り上がりには欠け、前年並みに推移している。また、各業種で人手不足が改善されぬ中、円安基調による原材料高や原油高等を憂慮する等、今後の見通しも厳しい状況である。

製造業	食料品		パンは低価格志向に加え消費が低迷し、景気回復の実感が得られない状況である。製麺はカップ麺やコンビニのチルド麺好調の影響で、年末の動きが若干鈍化している。酒造は純米吟醸酒・吟醸酒の売上好調が続く。
	繊維・同製品		桐生織物は梅春物が依然低調も、今後の輸出向け商品に期待している。伊勢崎織物はほぼ横ばいで先行き不透明な状況である。繊維製品は百貨店等で乱売状態が続く中、取引先からの加工賃の引き下げ要求に対応し厳しい状況である。
	窯業・土石製品		生コンは地域間格差がある中、県央地域が全体を押し上げ前年並みに推移している。コンクリートブロックは需要が持ち直しつつあるも、各企業は人手不足に苦慮している。砕石は景況感が一部地域で回復傾向も全体では低迷が続く。
	機械・金属		円安基調となり好転を期待する一方、原材料等の値上がりを危惧している。富士重工関連は依然好調を維持し、国内・北米の関連企業は設備投資が拡大している。鍍金は輸出に陰りが見え、生産量確保に苦慮する企業が散見される。
	その他の製造業		木材は原料・人手不足により操業度が低下している。紙加工品は依然古紙価格の上昇や原油高等を懸念する中で、景況感はやや持ち直している。ゴムは年末にかけて操業度が上昇する企業が見られる。
非製造業	卸売業		高崎の食品卸は祝日とクリスマスが重なり、日の並びに恵まれるも荷動きは低調となる。太田卸は人材確保に苦慮する企業が散見される。農産物卸は年末で野菜が高値となるも比較的安定した相場で推移している。
	小売業		生花小売は値頃感を求める消費者が増加している。中古車オークションは出品台数を維持するも、成約率の伸び悩みで手数料収入が減少している。商店街は暮れらしさが薄れ、各地の年末商戦は低調で売上が伸び悩み、廃業も散見される。
	サービス業		温泉旅館は忘年会の需要が減り、規模も年々縮小傾向にある。不動産取引は太田市域において、駅周辺の再開発事業や工業団地造成等で住宅用・事業用ともに需要が増加している。建築設計は受注体制の強化と一層の技術向上に尽力していく。
	建設業		建設工事は労働者の高齢化で更なる人手不足を懸念している。解体工事は年末の駆け込み需要や、空き家解体助成制度の充実で工事件数がやや増加している。塗装工事は仕事量の落ち込みや、人材不足等労務問題への今後の対応を不安視している。
	運輸業		一部で車両不足の場面が見られるも、全体として荷動きは低調で、年末の繁忙感は乏しい状況である。業界全体の課題である運転手不足に不安を募らせている。小型運送は年末における臨時の遠方輸送依頼で売上が増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 114.1(前月比▲2.6%)「県統計課・11月」
- 住宅着工戸数 1,245戸(前年同月比+8.9%)「県建築住宅課・11月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.04倍・有効1.42倍「群馬労働局・11月」
- 大型小売店販売額 202億円(前年同月比+4.8%)「経済産業省・11月」
- 消費者物価指数(全国) 100.4(前年同月比+0.5%)「総務省統計局・11月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)